

Research

2023.1st

特集 新課程に向けて どんな授業に取り組むか

- ・皆川雅樹の授業探訪⑥
定期試験の答案返却, どうしていますか?2
- ・外部開発教材をつかってアクティブ・ラーニング!
津田沼高校 杉田孝之先生のご授業9
- ・皆川雅樹の授業探訪⑦
ペアで仮説を立て検証する〈日本史B〉の授業 15
- ・教科書 Research 供給教科書の変更点 22



清水書院



本社 〒102-0072

東京都千代田区飯田橋3-11-6

営業部 TEL 03-5213-7151 FAX 03-5213-7160

編集部 TEL 03-5213-7155 ~ 6

大阪支社/札幌営業所/九州出張所

URL <https://www.shimizushoin.co.jp>

皆川雅樹の授業探訪⑥

定期試験の答案返却、どうしていますか？

～〈日本史B〉を例に、「評価」について考える～

訪問先：専修大学附属高等学校（東京・私立） ※2022年5月に取材

取材した授業：日本史B

担当教員：杉山比呂之先生（教員15年目、写真）



◆取材者プロフィール

皆川 雅樹（みながわ まさき）

産業能率大学経営学部准教授。博士（歴史学）。専修大学・上智大学兼任講師（教職課程）。元専修大学附属高校・法政大学第二高校教諭（地理歴史科）。アクティブラーニングを意識し、ファシリテーション、KP法などを駆使して、授業などの学びの場づくりに取り組む。著書『日本古代王権と唐物交易』（単著、吉川弘文館）、『アクティブラーニングに導くKP法実践』（川嶋直との共編著、みくに出版）、『歴史教育「再」入門』（前川修一・梨子田喬との共編著、清水書院）、『持続可能な学びのデザイン』（編著、清水書院）、『失敗と越境の歴史教育』（宮崎亮太との共編著、清水書院）、『「唐物」とは何か』（河添房江との共編著、勉誠出版）など。

@ご感想・ご意見などは下記メールアドレスをお願いします。 MINAGAWA_Masaki@hj.sanno.ac.jp

0. 授業探訪の目的と目標

コロナ禍が続く中、6回目の授業探訪ができた。今回は〈日本史B〉の授業を探訪した。

<授業探訪の目的>

学び続ける教員たちがつくる学びの場との対話を試みる。

<授業探訪の目標>

- ①授業の特徴に触れることができる。
- ②マインドを含めた授業デザインについて考えることができる。
- ③教員にとっての授業の「価値」について考えることができる。

※第1～4回の取材内容と授業者からのリプライは、2021年7月に刊行した皆川雅樹編『持続可能な学びのデザイン—公共・歴史総合への架け橋 高校「社会科学」授業実践—』（清水書院）に収録。ぜひご一読ください。

1. 今回の授業探訪先

第6回目の授業訪問先は、東京都杉並区にある専修大学附属高等学校の杉山比呂之先生の3年生の〈日本史B〉の授業である。〈日本史B〉は、高校3年生の授業科目として設定されている。

なお、同校の2022年度の地歴・公民科目の内訳は、次の表の通りである。

<2022年度入学生>

高校1年：

*地理総合（2単位） *公共（2単位）

高校2年：

*歴史総合（2単位） *倫理（2単位）

高校3年：

【専修大学進学コース】

*地理探究・世界史探究・日本史探究から1科目選択（3単位） *政治・経済（3単位）

【他大学進学コース（文系）】

*地理探究・世界史探究・日本史探究から1

科目選択（5単位） *政治・経済（2単位）

【他大学進学コース（理系）】

*（科目設定なし）

<2021年度以前入学生>

高校1年：

*世界史A（2単位）

高校2年：

*日本史A（2単位） *現代社会（2単位）

高校3年：

【専修大学進学コース】

*地理B（3単位） *日本史B（3単位）

*政治・経済（3単位）

【他大学進学コース（文系）】

*地理B・世界史B・日本史Bから1科目選択（5単位） *政治・経済（2単位）

【他大学進学コース（理系）】

*（科目設定なし）

※【 】内はコース

<学習目標>

1. 【知識・技能】 史実に基づいた日本史（歴史）の基礎知識を身につけ、歴史を科学的に深め、常に「Why？」を大切にしながら理解する。
2. 【思考力・判断力・表現力】 地理的認識をふまえて、社会がどのように変化したかをつかみつつ、知的好奇心を持って日本史（歴史）を考え、それらに対して自分なりの意見を持ちつつアウトプットする力を身につける。
3. 【主体性・多様性・協働性】 当事者意識を持って日本史（歴史）を空間的にとらえ、今日（世界）が直面している諸課題を他者との対話を通じて考え、それを解決するための方向を見定める力を養う。
4. 【+α】 課題レポート作成において、(1) 作成のための計画、(2) 文献、史料・資料や情報を集めるための調査、(3) それらに基づいた論文の作成、という作業を通じて、自ら歴史の事実を調べる力を身につけ、史実に立脚した歴史認識を組み立てる力を養う。

2022年5月、杉山先生が担当する「専修大学進学コース」（以下、専大コース）の〈日本史B〉の授業（1コマ1クラス：36名出席）を見学させていただいた。取材当日の授業では、定期試験（1学期の中間試験：同校では「中テスト」と呼称）の答案返却が行われた。

2. 学習目標と評価方法

通常の授業ではなく、答案返却について取材しようと考えた理由は、いま高校の教育現場で先生方が関心を持つテーマとして「評価」があるからである。観点別評価が、今年度から高等学校でも本格的に実施され、その中で定期試験の位置づけやその意義についても見直す機会となっていくことが予想される。

同校の専大コースの〈日本史B〉は、3年生に配当されており、1・2学期のみの授業となる。シラバスによると、<学習目標><評価の方法>は次の通りである。

<評価の方法>

《評価の観点》

以下の評価方法を基準として、授業態度や課題の提出状況などを総合的に評価する。

《評価方法》

【1学期】

- ①期末試験（50分間）= 50点満点（マークシート・記述・担当者別論述）
 - ②中テスト（30分間）= 30点満点（マークシート・記述）
 - ③パフォーマンス評価 = 10点満点
 - ④旧国名小テスト = 10点満点
- 合計：①+②+③+④ = 100点満点

【2学期】

- ①学年末試験（50分間）= 50点満点（マークシート・記述・担当者別論述）
- ②中テスト（30分間）= 25点満点（マークシ

ト・記述)

③パフォーマンス評価＝10点満点

④課題レポート＝15点満点

合計：①＋②＋③＋④＝100点満点

＜学習目標＞は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性（＝主体的に学習に取り組む態度）」という3観点に基づく設定となっている。それにともなって、＜評価の方法＞もペーパーテストのみではなく、「パフォーマンス評価」や「課題レポート」も採用している。なお、「パフォーマンス評価」については、年度初めの杉山先生の説明によると、「振り返りシート及び授業に向かう主体的な姿勢などが対象となります」とあり、毎授業時の「振り返りシート」の記入やICTを活用した生徒からの意見共有の提出などが該当するようである。

今回取材した授業では、杉山先生によって採点された中テストが個々の生徒に返却された。その試験内容は、①マークシートによる選択（4択）問題、②歴史用語の記述式問題（「三内丸山遺跡」「箸墓古墳」などを記入）、③担当者別の論述式問題であった。①・②は、知識を知っているかどうかのいわゆる習得¹⁾問題である。

1) 例えば、学校教育法第30条第2項には「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない」とあり、基礎的な「知識・技能」は「習得」させるもの、その知識・技能を「活用」して課題を解決するために必要な力が「思考力・判断力・表現力」であるという。さらに、平成30年告示の高等学校学習指導要領（新指導要領）では、「習得」「活用」とともに「探究」が強調されている。「探究」とは、学校教育法第30条第2項に見る「課題を解決することであり、答えが明確ではないことについて問いを設定して仮説立てをして調査・検証することであろう。「探究」について新指導要領の解説には、「実社会や実生活における課題を探究する総合的な探究の時間と、教科の系統の中で行われる探究の両方が教育課程上にしっかりと位置付き、それぞれが充実することが豊かな教育課程の実現につながる」（「総合的な探究の時間編」10頁）とあり、〈総合的な探究の時間〉や〈〇〇探究〉といった「探究」がつく科目で探究学習をすることになる。

一方、③担当者別の論述式問題は次のような出題である。

問1：日本における縄文時代の発見の経緯（発見者や発見場所など）について述べなさい。

問2：「3つの日本史」という視点に基づき、日本本土が弥生時代の頃の2つの地域がどのような文化を形成していたのか述べなさい。

問3：『魏志』倭人伝からみる当時の倭国の文化の特徴について述べなさい。

問1は、相沢（澤）忠洋や岩宿遺跡などについて説明することは予想がつき、習得問題と言える。一方、問2・問3は、文化について、どの要素・特徴を取り上げて説明するかは生徒次第であり、「思考力・判断力・表現力」が問われる活用問題につながる。

このような中テストによって、＜学習目標＞における「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を「評価」することが可能となっている。

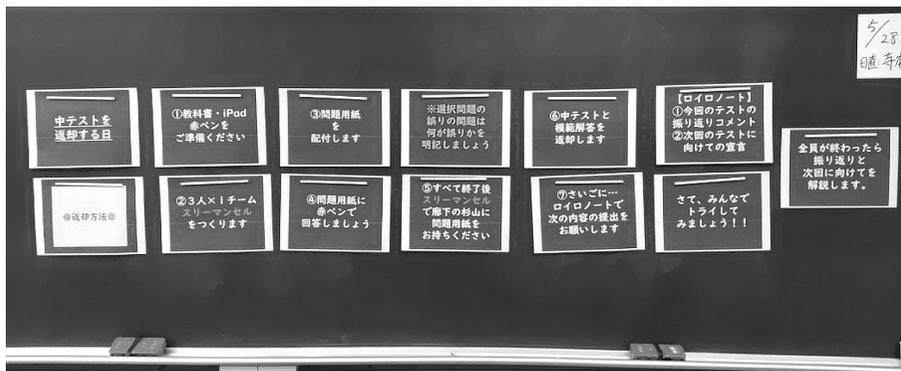
3. 定期試験(中テスト)の答案返却

1コマ50分間の構成は、おおよそ次のようになっていた。

- ①本日の授業についての説明（約5分）
- ②問題用紙配付と活動の説明（約5分）
- ③グループで問題を解き直し、杉山先生が確認して生徒各自の答案返却（約35分）
- ④杉山先生からの補足説明（約5分）

① 本日の授業についての説明（約5分）

最初に、「中テスト」を返却すること、生徒たちは3人1組で授業中の作業を進めていくこと、今回の活動の振り返りコメントを「ロイロノート school」²⁾に入力すること（その入力パフォーマンス評価の一部となること）を杉山先生が告げる（【写真①】）。



【写真①】指示が黒板に貼られた紙で示されている（KP法）。

そして、生徒たちは3人1組で机を寄せて、グループをつくる。

② 問題用紙配付と活動の説明（約5分）

中テストの問題用紙・解答用紙（未記入）が、生徒ひとりひとりに配付される。なお、この時点で、生徒たち自身が中間試験期間に記入し、杉山先生が採点した解答用紙は、生徒各自には返却されていない。

さらに、この時間内に中テストの問題を3人で協力して解き直すことが指示される（【写真②】）。その際、（ア）解き直しにあたっては、何を参考にしても構わない^③が、選択問題の場合は正解だけを探すのではなく、正解ではない選択肢がなぜ間違いなのかを丁寧に確認すること、（イ）解き直し完成次第、廊下にいる杉山先生のところへ行き、答え合わせをした上で、採点された生徒各自の解答用紙と解答例を配付することが告げられる。



【写真②】3人1組で机を寄せて座る様子。机上にはiPad・教科書などがある。

③ グループで問題を解き直し、杉山先生が確認して生徒各自の答案返却（約35分）

生徒たちは、グループで話し合いながら、解答用紙を埋めていく。その際、杉山先生は静かに見回っているだけである。

問題を解き始めて20分くらい経ったところで、1グループ目が廊下で待っている杉山先生のところへ行く（【写真③】）。

杉山先生「（解き直しに）取り組んでみてどうですか？」

生徒「試験問題の傾向や対策が多少はつかめました」

杉山先生「改めて、気づきはありましたか？」

生徒「はい、細かいところまできちんと整理して理解する必要がありそうです」

杉山先生「それを次の試験に向けて生かしてみてください」



【写真③】廊下で待つ杉山先生と生徒3人との問答の様子。

2 「ロイロノート school」とは、授業支援クラウドのことで、双方向授業やシンキングツールの活用などをオンライン上でサポートするものである。株式会社LoiLoのHP(<https://n.loilo.tv/ja/> [2022年10月6日最終閲覧])参照。

3 生徒たちは、教科書・副教材のほかに、1人1台iPadを所

持しており、インターネット環境は整っている。授業内で使用するプリント類や杉山先生による説明動画や関連動画などの教材は、Google Classroomに設定されており、いつでも閲覧可能である。

上記のようなやりとりがあった後、生徒たちは自分自身の採点された解答用紙と解答例を受け取る。

④ 杉山先生からの補足説明 (約5分)

最後に、杉山先生からテストとの向き合い方について、一言アドバイスがあった。「マークシート式による選択(4択)問題は、一問一答式の断片的な知識として暗記していても正誤を判断できないので、つながり意識して理解しておく必要がある」と。そして、振り返りコメントを「ロイロノート school」に入力しておくことを再度伝えて授業は終了した。

4. 授業の特徴

本授業の特徴として、i) 定期試験の解答用紙を返却して先生が解説して終わりではなく、生徒たちが自力で振り返ることで定期試験を意味あるものに行っていること、ii) グループワークが効果的に使われていることがあげられる。

i) 定期試験を意味あるものに

生徒たちは、問題を解き直しながら「これこうだったか」「もしかしたら間違えたかも」などと会話をしつつ、教科書やこれまでの授業で使ってきた教材などを活用して取り組んでいた。通常の試験返却では、①自分自身の採点された解答用紙を返却、②問題用紙、解答用紙、赤ペンだけを机に出して先生の解説を聴く、③採点ミスがあれば申し出る、といった流れで展開するのではないだろうか。先生の解説を聴きながら、教科書やこれまでの授業で使ってきた教材などを確認する機会も余裕もなく、点数に一喜一憂して試験返却が終了してしまう。

杉山先生の今回の試験返却の方法だと、点数に気を取られる前に、授業内容についてきちんと振り返ることができる。また、先生の解説ではなく、教科書やこれまでの授業で使ってきた教材などからの情報を自分たちで選び出しながら、問題を解き直すことで情報を整理・分析して活用することにもつながる。

ii) 効果的なグループワーク

生徒たちに日頃の授業の特徴をきくと、「ペアなどのグループワークが多い」との意見がたくさん出ていた。今回の授業でも、3人1組でのワークが展開していた。杉山先生にグループワークを成立させるためのコツをきくと、年度初めの授業開きの際に杉山先生自身が自己開示することでリレーションを築きつつ、ルールを共有することができるようになってきたことをあげている。

グループワークを成立させるコツというところ、ルールの徹底やワークシートづくりといった手段に注目しがちである。しかし、グループワークの場をつくる先生とそこに参加する生徒たちの信頼関係が前提としてなければ、生徒たちは安心して参加することができなくなる。杉山先生は、その関係づくりのために、年度初めの授業開きで2コマの時間を費やしている。

5. 授業デザインの特徴

杉山先生は、コロナ禍を体験する中で「ICT」と「対話」という2つのことを意識した授業デザインをしているという。授業開きの際の生徒たちへの説明において、「ICTの活用はあくまで手段。目的は学び合うこと。そこでiPadを活用しつつも、対話を大切にしたい授業設計を心がけます」と宣言している。

生徒1人1台のiPadを通じて、Google Classroomや「ロイロノート school」などを活用できるが、その活用を目的とはせず、「対話」を大切にしたい授業づくりをしていく。ここでいう「対話」は、生徒同士、先生と生徒のどちらも指している。また、その「対話」では、ICTも活用しつつ、リアルな場でのグループワークや先生と生徒との問答の時間など、学び合うことを前提としている。

このようなことを前提として、杉山先生は①「日本史を学ぶ、日本史で学ぶ」、②「場を創り、場に価値を」を大切にしていきたいことも宣言している。日本史の内容を学ぶだけではなく、それを学ぶこと、それを学ぶ場を通じて、生徒ひとりひとりが自分自身にとって価値あるものを見出していくこと

を、授業を通じて追求しているのであろう。今回の定期試験の答案返却の授業の場も、その一環としてとらえることができる。つまり、成績に直結する定期試験の結果だけではなく、日本史の授業を通じて学んだことやその価値を認識し、生徒ひとりひとりが次へのステップへと進むための「評価」の場として、答案返却という機会があると言える。

6. 授業の「価値」

杉山先生は、2年生対象の選択講座（土曜日2コマ）として、「秘密基地「らぼる」」と銘打った授業も担当している。この授業について生徒向けの紹介文は次の通りである。

2022年春、秘密基地「らぼる」がグランドオープン！！

秘密基地「らぼる」とは…みなさんでこれまで経験・挑戦したことのないことを実験していく＝“らぼる”（「lab」(ラボ) / laboratory の略称)、高校生×大学生×大人も楽しく学べる秘密基地（隠れ家）です。

どんなことを“らぼる”かというところ…

「とりあえずギネスに挑戦／アイスブレイクという緊張をほぐすゲームを学ぶ／高校生と大学生がチームになってワークショップづくり／部活でも使えるコーチングやファシリテーションをプチ体験／ビジネスコンテストに出てみよう／学校の外でプロと本気の対話／就活×終活!？」などなど、受講してくれたみなさんの「やりたい」を見つけるきっかけがたくさん。そして、もちろん実験に失敗はつきもの…失敗を恐れずにどんどん“らぼる”，それがこの場所での唯一のルールです。

秘密基地「らぼる」はあなたの選択を待っています。

※本講座は2012年より開講してきた「チーム作り講座」が、新たに生まれ変わって誕生した授業です。



【写真④】秘密基地「らぼる」の授業の様子

この講座は、laboratory（研究の場）を意識したもので、生徒たちひとりひとりの挑戦や探究を後押しするものである。①自己を分析する→②自己について他者に伝える→③挑戦することを決めて行動に移す（らぼる）といった流れで1年間取り組むものである。

また、授業運営は、同校の卒業生である大学生2名が担当していた。この講座は、前身の「チーム作り講座」以来、同授業を経験した卒業生や講座の意図に賛同してくれる社会人の方々と杉山先生が、授業を運営するチームを結成し進めていく形式をとっている。高校生たちの学びの場であるとともに、卒業生たちなどの学びの場ともなっている。〈日本史B〉の授業で、杉山先生が大切にしていることとしてあげていた「場を創り、場に価値を」がこの講座にも前提としてあることがわかる。

今回、〈日本史B〉の授業に加えて、この講座についても見学ができた。見学時は第5回目の授業で、性格診断テスト（MBTI）を活用しての自己分析・自己理解をする回であった（【写真④】）。

杉山先生は、この講座にしても、〈日本史B〉の授業にしても、学習者ひとりひとりが安心して学ぶことができる場を、一緒に創っていきたいと考えていることがよくわかった。そのために、ひとりひとりの思いや挑戦する心などを、授業の場や対話を通じて共有し、新たな学びにつなげていく。その中で、一教員として生徒たちひとりひとりに伴走することに徹していくことを、現段階で理想としつつ意識し

ているように見えた。

学習に関わる「評価」について、観点別評価などが学校現場で実施されている。3つの観点に基づいて、先生が生徒ひとりひとりをみとっていくことや、生徒たち自身が振り返り、次への学習意欲につなげていくことが大切であることは否定しない。ただし、その「評価」で終わってしまっただけでは意味がない。「評価」の先にあるものや「評価」の外にあるものについて、どの程度意識できるのか。そこに、学校・授業における学びの場を「つくる」ことの意味がありそうである。

読者のみなさまは、学校で「評価」する意味をどのように考えますか？

◆訪問先データ

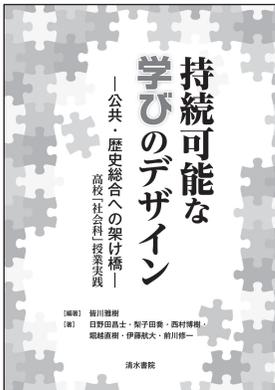
専修大学附属高等学校（私立・共学校）

〒168-0063 東京都杉並区和泉 4-4-1

HP：https://senshu-u-h.ed.jp/



清水書院 教育書のご案内



持続可能な学びのデザイン

—公共・歴史総合への架け橋—

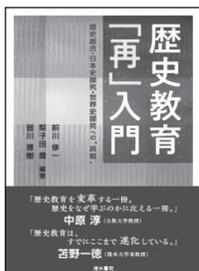
高校「社会科」授業実践

皆川雅樹/日野田昌士/梨子田喬/西村博樹/堀越直樹/伊藤航大/前川修一 編著

新科目に向けて新たな学びのデザインの提案！

著者が直接取材してきた各学校の授業が、コロナ禍やその後を見据えてどのように“進化”し、新しい授業のデザインに向けて動き出しているかを検証します。授業実践を新時代に向けての新たな指針の一助にできれば幸いです。

A5判/144ページ 定価1,540円（税込み）



歴史教育「再」入門

歴史総合・日本史探究・世界史探究への“挑戦”

歴史を「教える」とは何か。2022年度より実施される、高等学校の新学習指導要領では「歴史」系の科目として「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」の授業がはじまる。

改めて、これらの新科目とこれからの歴史教育のあり方を考えるための一冊。（授業事例12実践掲載）

A5判/352頁
定価 2,530円（税込）



—これまでの授業実践を
歴史総合にどうつなげるか—

失敗と越境の 歴史教育

教育改革、アクティブラーニング運動の渦中で授業実践の改善を行ってきた執筆者たちの記録と、新科目『歴史総合』、これからの歴史教育への展望。

A5 / 160頁
定価 1,760円（税込）

外部開発教材をつかって アクティブ・ラーニング！

証券知識普及プロジェクト「金融クエスト」で どんな授業ができる？

実践の取り組み校：千葉県立津田沼高等学校

※ 2022 年 10 月に取材

担当教員：杉田 孝之 先生（教員 30 年目）



新指導要領の施行と授業

2022 年 4 月から高等学校において新しい学習指導要領（2018 年告示）（以下「新指導要領」）が施行され、早一年がたとうとしている。今次の指導要領では、「何ができるようになるのか、何を学ぶか、どのように学ぶか」が学習におけるキーワードとなっており、「理解できたこと」「わかったこと」を活用して考えを深めたり、見方・考え方を学んで、考察や構想を展開したりすることが求められている。つまり「教科書の太字の重要語句を覚える」という授業から、「獲得した基礎知識を使ってこのようなことが出来るようになる」ことが授業において求められるのであり、教員には授業内容の改善・見直しが急務であるともいえよう。

こうした授業改善への求めとともに、外部資源（人材）の活用も求められている。教員による講義や活動だけではなく、専門家の知見や専門的な内容をもつ多様な教材などを活用することは、生徒の理解を深めるためにも、また生徒の興味・関心を高めるためにも大きな意味がある。

この報告では、そうした外部開発教材を活用した授業に長く取り組んでいる、千葉県の杉田孝之先生の授業を紹介させていただく。

公民科の外部教材はさまざまな関連団体からの提供素材があり、授業者自身の授業進度に合わせて、また、1 年間のカリキュラム・マネジメントによっても、取捨選択ができる状況であろう。杉田先生には、今回取り組まれた教材についての選定理由やこれまでの取り組みなどについてもお話を伺ったが、まずは、授業実践された教材の紹介と、実践授業について、報告していく。

外部開発教材 金融クエスト

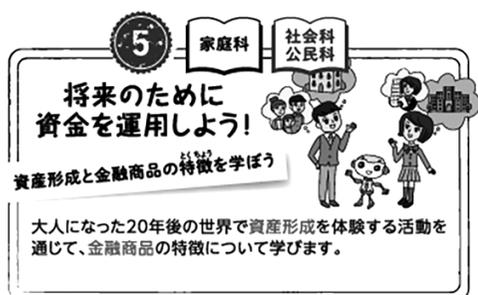
杉田先生が今回取り組まれたのは、証券知識普及プロジェクト^①によって制作された「体験して学ぼう！ 金融・経済・起業 金融クエスト」という教材である。

当該教材の活動は、経済や金融に関するさまざまなテーマをゲームの世界で体験的に学ぶ、というもので、生徒たちの主体的な活動を促すものとなっている。

グループワークなどの体験学習を通じて、5つのテーマ（①起業・投資の意義、②間接金融・直接金融、③株式会社のしくみ、④社会の変化と会社への影響、⑤資産形成などへの関心と理解）について学ぶ。上記のテーマに即して、社会（公的的分野）、現代社会、公共、政治経済、商業等、家庭基礎※、家庭総合※（※⑤資産形成の教材）が、内容に関連する教科・科目として挙げられている。

活動の進行や解説は、web サイトや専用DVDの動画などにより行われ、生徒用ワークシートを順次進めていく形で、グループに分かれたアクティブラーニングが実施できる（web環境のみでの活動も可能）。実施に必要な時間は50分を想定していて、授業の振り返りまでを含めて授業時間1コマで完結する。（<https://www.jsda.or.jp/edu/curriculum/quest.html> より）

杉田先生は上記①～⑤のうち教材⑤の「将来のために資金を運用しよう」という教材に取り組まれた。



<https://www.jsda.or.jp/edu/curriculum/quest.html>



金融クエスト・教材5 将来のために資金を運用しよう！

©証券知識普及プロジェクト

千葉県立津田沼高校での実践

千葉県立津田沼高校は、比較的落ち着いた住宅地にある、国公立大学や私立難関大学への進学が多い公立高校である。生徒数は950名強で、クラス数24、県内の公立高校には珍しい音楽コースが置かれている。

授業実践はグループワークが行いやすく、視聴覚機能の使用ができる、同校の図書室で実施された。取り組んだ生徒たちは、政治・経済を履修している高校3年生である。

「金融クエスト」は生徒用のワークシートと教授用手引書、活動に関連したカードやその他主体的活動に必要な動画、活動後の解説をする動画、などがセットとなっているため、授業準備が比較的軽減できる。

実施された教材⑤は「将来のために資産を運用しよう！ 資産形成と金融商品の仕組みを学ぼう」であ

①「証券知識普及プロジェクト」は、日本証券業協会、日本取引所グループ、東京証券取引所、大阪取引所、名古屋証券取引所、福岡証券取引所、札幌証券取引所、投資信託協会が参加し、公正・中立な立場から長期的・継続的に証券知識の普及・啓発を図ることを目的に各種の活動を行っている。

る。今次の指導要領（公共）で重視されている「金融教育」の視点、「様々な金融商品を活用した資産運用にともなうリスクとリターンなどについて、身近で具体的な事例を通して理解できるようにすること」に即した内容である。

実施された授業の流れを追ってみよう。

1 これからのライフイベントと資産形成について考える（2分程度）

導入の動画によるイントロダクションでは、これからの人生で生徒たちが経験するであろうさまざまな出来事（進学・結婚・マイホーム購入・老後の生活など）について想起させる。それらの出来事に備え、必要となる資金を作っておくこと（＝資産形成）が大事であることを押さえる内容である。動画を視聴する導入なので、生徒たちのざわつきも自然と落ち着いてくる。

2 金融商品との相性を判断するために診断テストに取り組む（3分程度）

自分の性格や嗜好に合う金融商品を選ぶために診断テストに取り組む。3問の質問に答えることで、自分に合った金融商品について意識することができる。

津田沼高校の生徒たちは資産形成に関する意欲や興味関心が高く、この診断テストの結果を受けて、今後、どのように繋がっていくのかについて、さらに興味を深めているように感じた。診断テストの結果をグループ内の他メンバーとも話し合いながら、活気ある雰囲気づくりがされていった。

あなたに合った金融商品が分かる？ 診断テスト

Q1～Q3を読み、自分の考えと近い方へOをつけてみよう。

Q1 苦勞して貯めたお金で旅行することにしました。旅の計画はどうしますか？

A 思いがけない楽しいことに出会えたりするかもしれない。細かい計画は立てない!!

B 何があるかわからないから念入りに計画を立てる!

Q2 友達といつものレストランに行きました。どちらのメニューを注文する？「お気に入りの“いつものメニュー”」「どんな食材を使っているかわからない“シェフのお任せメニュー”」

A 苦手なものがあるかもしれないが、新しいメニューに挑戦!!

B 苦手な食材が含まれているかもしれないと不安に思い、いつもと同じメニューを注文する

診断テストの紙面 自分の好みや考えを、AかBの二択で答えていく。こうした診断テストは実際の金融商品の購入の際にも行われる。

©証券知識普及プロジェクト

3 それぞれの金融商品の特征について個人ワーク（ワークシート①）に取り組む

（15分程度）

次に金融商品（ここでは「預金・債券・株式」）の特征について、動画での説明を視聴し、配布されている生徒用ワークシート①に、個人個人で記入していく。

この動画は通して視聴すると個々の金融商品の説明に4分間をかける長めのものだが、杉田先生は預金・債券・株式それぞれの金融商品の説明ごとに、動画を止め、一つ一つの金融商品の特征を簡潔に整理しながら、個人ワークに取り組ませていた。

先生自身のそれぞれの金融商品に対するコメントなどもあり、生徒たちは「診断テスト」の結果で自分に合った金融商品とされた商品の特征を確認するように臨んでいた。

4 20年後の世界に移動して資産形成を体験するワーク②に取り組む（20分程度）

この教材のメインの体験的活動がこのワーク②である。ワークの設定は、20年後、仕事によって収入を得ている「あなた」が、余裕資金である20万円で金融商品を選んで投資をしてみるというもの。社会のさまざまな出来事を通して、資産形成の体験をする。

「資産形成の体験」とは、投資した金融商品ごとの金利や株価の値動きを、社会の動きとともに擬似的に体験することをいう。

年 組 番号

ワークシート②

名前: _____

資産形成を体験!

●金融商品を2つ選ぶ!
●選んだ金融商品の欄にあるクエスト銀行券を囲もう!
●すべての金融商品の増減額を記入しよう!
●グループで選んだ金融商品の総資産額を計算しよう! (単位:円)

資産(2つの金融商品に投資すること)				
金融商品	株式A (飲料品会社) 初期の配当金 4000円	株式B (ロボット製造会社) 配当の配当金 900円	債券 (日本の国債) 利率の利率 1%	預貯金 毎年の利率 0.001%
ア 当初資産	100,000	100,000	100,000	100,000
イ ニュース1				
イ ニュース2				
イ ニュース3				
イ ニュース4				

資産形成の体験ワークシート紙面 グループで金融商品を選ぶ。

©証券知識普及プロジェクト

例えば、原油価格が高騰して、株式の価格が下がったり、消費税が増税されたことで債券の評価が上がったりといった場面が、ニュースとして6つ設定されている（下図のカード参照）。

選べる金融商品は4つで、メーカーの株式A・ベンチャー企業の株式B・債券・預貯金である。

グループでの活動となるので、4人程度のグループごとに「投資」する金融商品を選び、社会の出来事は「社会情勢カード」6枚によって教員から発表される。

津田沼高校の実践では、杉田先生から発表される社会情勢ごとに「やった！」「ええ〜」などの声が上がリ、ワークに取り組む生徒たちの活気はさらに高まっていった。

6つのニュースによってもたらされた状況から、どの商品を選んだかによって、結果には差が出る。金融商品の選び方で、「資産を運用する」「資産を形成する」ことが擬似的ではあるが体験できることになる。



社会情勢カード 資産形成の体験ワークにおいて社会の出来事を示すカードで、それぞれの金融商品への影響も示される。教授用指導書には出来事がどのように金融商品に影響を及ぼすかの説明もある。

©証券知識普及プロジェクト

5 資産を運用するために大事な知識

「リスクとリターン」を振り返りで学ぶ

(10分程度)

この教材では、「資産形成」の体験学習をしておしまいはなく、こうした資産形成のための金融商品選びにおいて、必要な知識「リスクとリターン」「分散投資の考え方」などを、まとめの学習・振り返り学習として、動画できちんと説明してくれる。

金融についての専門的な知識や考え方をフォローしてくれる内容となっていて、この説明内容を確認する個人ワーク③にも取り組む。こうした学習において、必ず言われることだが「ローリスク・ハイリターンの商品はない」ということを、改めて学ぶことができる。

生徒たちは、体験学習での一喜一憂の状況から、まとめの動画を視聴する頃になると、自分達の活動の結果との関係を考えてか、振り返りの学習と捉えている様子であった。杉田先生からご自身の金融商品に対するお考えや体験などのお話もあり、長期的な視点から考えて取り組むことや、余裕資金で取り組むことなどが強調された。

以上のように、1コマの授業時間である50分間でこの教材は終了できる設定である。最後のワーク③で、書き込む内容に選択する理由づけ（なぜならば）を考えなければいけない箇所があり、それに手間取っている生徒もいたが、おおよそは、書き上げて図書室を出ていった。

以下、授業実践に取り組んだ、杉田先生のご感想やお考えを伺ったのでまとめてみた。

なぜ、この教材を選んで取り組んだのか？ 教材選定の理由

まず杉田先生には、外部教材選定の理由や、活動に取り組んでみた感想などを伺った。

【教材選定について】

なんとといっても外部教材は、各分野の専門家が時間をかけて作成した教材であることから、安心して

取り組めると考えている。これまでも色々な教材を利用して、授業で活用している。

今回は、新指導要領などで重視されている金融教育の視点を活かせる教材を探していた、ということと、家庭科と公民科とコラボのできる教材という点を重視して、「金融クエスト」の教材5を初めて取り扱ってみた。

実は、前年度は「金融クエスト」教材3の、株式会社を学ぶ内容を実践していたのだが、別の学校で教材5の授業実践を見た時に「いいな」「やってみたいな」と感じたことも理由としてはある。というのも、津田沼高校の生徒たちは、金融商品や金融の動きといったものに興味関心が強く、資産形成について学びたい、知りたい、といった声を以前から聞いていたからである。

【実践後の感想】

教材を実践してみて感じたのは、やはりこうした教材は、教員の授業準備の負担の問題をずっと軽くしてくれているということ。割り当てる単元の授業時間数も限られているし、そのための準備の時間も限られているため、生徒用のワークシートや動画や小道具(この教材では社会情勢カード)が揃っていて、取り組みやすいと感じた。また、この教材5が扱う「金融」や「資産形成」については、今、実際に動いている社会状況から、学べるので、社会につながる学習になったのではないかと思う。

つまり、教員がこの材料をもとに、授業実践の中で関連づけて説明することで、新型コロナ感染症の拡大で起きた社会のさまざまな出来事や、選挙や内閣の組閣などによる政治的な状況、円安ドル高の経済的な状況など、社会の情勢と金融をミックスして授業を展開できたように感じている。

また、選定の基準ともなった金融教育の視点から考えると、初めてこうした「金融商品」といわれるものに出会った生徒たちは、何をどうしていいか、何を考えればいいかわからないので、そのハードルを、ここで一旦下げるような形の学習はできたと思う。



生徒たちに自身の経験を語る杉田先生 図書室を活用し、動画を見せながらのグループ学習が実施された。(2022年10月)

外部教材活用の メリット・デメリットは？ 教材活用のポリシー

次に、外部教材を授業に取り入れることのメリットとデメリット、また、そうした授業で、杉田先生が心がけているお考え、などを伺った。

【外部教材活用のメリットとデメリットについて】

津田沼高校の場合、外部講師の授業や外部教材の実施は、比較的取り組みやすい学校であると思う。千葉県金融教育研究校の指定も受けているので、今回の金融クエストの実践授業に際しても、授業公開をし、校内の教員や外部の団体などとの連携も図った。生徒たちもそうした授業に積極的に取り組もう、という姿勢が見られる。生徒たちの学びとともに、教員も学びの機会になっていると感じている。

これまで、厚生労働省の社会保障教育教材の作成や実践に取り組んだり、主権者教育として校則を考える授業を千葉県の弁護士会とコラボして実施したりしている。

以上のような、うちの学校の状況ではあるが、こうした外部教材を取り入れた授業をするメリットとしては、時間の節約と教材の専門性があげられる。

限られた授業時間の中での節約については、教材選定でも重視しているところだが、どれだけ準備した教材があるかで、1コマの授業の密度は変わってくる。自分がどうやってこの教材を使いこなすかが分かれば、とても効率的に授業を進められるだろう。

また、教材の専門性については、教科書や資料集などに記載されている内容より、踏み込んだ内容や専門的な内容が外部教材の説明に含まれていることが多い。教員自身の元々の専門分野との兼ね合いもあって、より高度な内容を生徒に説明することが難しい時もある。外部教材でのきちんとした説明などから、改めて教員が学び直したり、弱点の補強をしたり、ということができる。

逆にデメリットとしてあげられるのは、費用的なことだと思う。例えば、弁護士などを外部講師として呼ぼうとすると、一定程度の費用が発生することがある。学校として、また、教員のカリキュラムマネジメントとして、きちんとした予算立てができていないと、簡単には呼べない状況なのである。

【教材活用のポリシー】

外部教材についても、自分で教材を考えたときでも、その教材を評価・分析する視点は変わらない。その教材に具体性があるか、生徒たちからの関心と適合しているか、授業後の発展性があるか、といったことである。その上で、うちの学校の生徒たちの実態に合わせて、学校で取り組んでいる「教育の指針」を考えて授業を展開すること、授業の振り返りなどにきちんと自分がコミットすること、という考えで取り組んでいる。

ちなみに、グループ活動におけるグループ分けの際は、その活動をどのように取り組むかによって、グループづくりを分けている。外部教材によって、活発な発言を促したい、今回のようなときは、人間関係の成立している仲間を優先している。人数は3人から5人の範囲であれば、特に問わない。ペアワークや作業的な内容の際には、強制的にグループをつくらせるということもある。

金融クエスト・教材5の評価、および「公共」との関係についてどう考えるか？

最後に、今回取り組まれた教材における評価の観点や、「公共」の学習における、当該教材の活用の可能性などについて伺った。

【外部教材を活用した評価の観点】

現行課程の高校3年生に対して授業を行ったが、評価については新課程の3観点で整理した。

知識・技能については、金融の基本的な内容を理解しているかどうかを定期試験でも確認できるので、ここでは、思考・判断・表現や主体的な学びに向かう力の観点についての私見である。

教材として配布されたワークシートには、自分の判断や考えを記入するスペースがあるが、教材を学習した後のレポート提出で評価をする。例えば「金融」について自分がどう関わるか、自分ごととしてどのように考えるか、金融に対して自分がどのようにコミットしていくかが書かれていることで、思考・判断・表現は評価できるだろう。

また、ここで学習した「金融商品」についてどう考えるか、といったことを書く生徒もいる。銀行の預金しか知らなかった生徒が、株式や債券などを知って、自分の考えが変わった、もっと知りたい、というような内容であれば、主体的な学びに向かう力として評価できる。

【新科目「公共」での教材活用について】

中央教育審議会が新課程の学習について発表してからだいぶ経つが、徐々に新しい教育・学習の形として、「何を活用して・何ができるようになるのか」が重要であることが定着してきていると思う。

その上で「公共」という科目での経済的な見方・考え方として、「希少」な資源をどのように活用するのか（希少性）という視点をもって「金融」の意義を考えることは、社会のしくみを学ぶことであると言える。

この教材によって、金融商品にはリスクがあるが、自分の人生を豊かにするために必要なこととして、どのようなものなのかをわかっていることが、社会のしくみを学ぶことであろう。例えば「ローリスク・ハイリターン金融商品はない！」ということを言葉として覚えるのではなく、体感して知るものだという。外部教材活用によって、生徒の学びの質は深まっていくと考えている。

(文責 清水書院編集部)

皆川雅樹の授業探訪 ⑦

ペアで仮説を立て検証する〈日本史B〉の授業

～〈日本史探究〉の文化史学習を刷新する!?!～

訪問先：岩手県立盛岡第三高等学校（岩手・公立） ※2022年11月に取材

取材した授業：日本史B

担当教員：古川剣士先生（教員6年目、写真）



◆取材者プロフィール

皆川 雅樹（みながわ まさき）

産業能率大学経営学部准教授。博士（歴史学）。専修大学・上智大学兼任講師（教職課程）。元専修大学附属高校・法政大学第二高校教諭（地理歴史科）。アクティブラーニングを意識し、ファシリテーション、KP法などを駆使して、授業などの学びの場づくりに取り組む。著書『日本古代王権と唐物交易』（単著、吉川弘文館）、『アクティブラーニングに導くKP法実践』（川嶋直との共編著、みくに出版）、『歴史教育「再」入門』（前川修一・梨子田喬との共編著、清水書院）、『持続可能な学びのデザイン』（編著、清水書院）、『失敗と越境の歴史教育』（宮崎亮太との共編著、清水書院）、『「唐物」とは何か』（河添房江との共編著、勉誠出版）など。

@ご感想・ご意見などは下記メールアドレスをお願いします。 MINAGAWA_Masaki@hj.sanno.ac.jp

0. 授業探訪の目的と目標

コロナ禍が続く中、7回目の授業探訪ができた。今回は〈日本史B〉の授業を探訪した。

<授業探訪の目的>

学び続ける教員たちがつくる学びの場との対話を試みる。

<授業探訪の目標>

- ①授業の特徴に触れることができる。
- ②マインドを含めた授業デザインについて考えることができる。
- ③教員にとっての授業の「価値」について考えることができる。

※第1～4回の取材内容と授業者からのリプライは、2021年7月に刊行した皆川雅樹編『持続可能な学びのデザイン—公共・歴史総合への架け橋 高校「社会科」授業実践—』（清水書院）に収録。ぜひご一読ください。

1. 今回の授業探訪先

第7回目の授業訪問先は、岩手県盛岡市にある岩手県立盛岡第三高等学校の古川剣士先生の2年生の〈日本史B〉の授業である。

同校の2022年度の地歴・公民科目の内訳は、次の通りである。

<2022年度入学生>

高校1年：

【共通】

*歴史総合（2単位）

高校2年：

【文系】

*世界史探究、日本史探究、地理探究から1つ選択（4単位）

*公共（2単位）

【理系】

*地理総合（2単位）・地理探究（2単位）

* 公共 (2 単位)

【理数探究コース】

* 地理総合 (2 単位)・地理探究 (2 単位)

* 公共 (2 単位)

高校 3 年 :

【文系】

* 世界史探究, 日本史探究, 地理探究から 1 つ選択 (4 単位)

* 政治・経済, 倫理から 1 つ選択 (2 単位)

【理系】

* 地理探究 (2 単位)

【理数探究コース】

* 地理探究 (2 単位)

< 2021 年度以前入学生 >

高校 1 年 :

【共通】

* 世界史 A (2 単位)

高校 2 年 :

【文系】

* 世界史 B + 日本史 A, 世界史 B + 地理 A, 日本史 B, 地理 B から 1 つ選択 (4 単位)

* 政治経済 (2 単位)

【理系】

* 日本史 B, 地理 B から 1 つ選択 (3 単位)

* 現代社会 (2 単位)

【理数探究コース】

* 地理 B (3 単位) * 現代社会 (2 単位)

高校 3 年 :

【文系】

* 世界史 B, 日本史 B, 地理 B から 1 つ選択 (3 単位)

* 倫理 (2 単位) * 政治経済 (1 単位)

【理系】

* 日本史 B, 地理 B から 1 つ選択 (2 単位)

【理数探究コース】

* 地理 B (2 単位)

※ 【 】 内はコース

2022 年 11 月, 古川先生が担当する 2 年生 (文系) の〈日本史 B〉の授業 1 コマを見学させていただ

た。なお, 文系の生徒 76 名 (2 クラス分) に対する授業なので, ホームルーム教室ではなく, 視聴覚室を使用していた。

2. 文化史を通じて政治を捉え直す授業

今回取材した授業内容は, 「室町文化」を扱う全 4 回の授業のうちの 2 回目にあたるものであった¹⁾。1 コマ 50 分間の構成は, おおよそ次のようになっていた。

- ① 前回の振り返りペアワーク (約 5 分)
- ② 問いの提示と概要説明 (約 5 分)
- ③ 仮説立てと検証のワーク (約 10 分)
- ④ ③の内容をグループ・クラス全体で共有 (約 5 分)
- ⑤ 補足説明と復習ペアワーク (約 20 分)
- ⑥ まとめとポートフォリオへの記入 (約 5 分)

① 前回の振り返りペアワーク (約 5 分)

はじまりのあいさつの直後, 古川先生からさっそく発問がなされた。「北山文化で代表的な人物は誰?



【写真①】教室全体の様子。古川先生は, 授業中にマイクを持って歩きまわる時間が多い。

1) 1 回目は室町文化の全体的な概要と南北朝の文化, 2 回目は北山文化の具体像 (本時), 3 回目は東山文化の具体像, 4 回目は室町文化についてのパフォーマンス課題と問いづくりを, それぞれ扱う設定である。なお, この単元を貫く問いとして, 「京都が文化首都として機能するために考えるべきことは?」というものがあった。2022 年度以降に文化庁が京都へ移転することや, 本授業の 2 週間後に実施される京都への修学旅行を意識した問いであると, 古川先生は言う。

次に、古川先生が生徒1名を指名し、考えた内容の発表をうながした。「義満は、従来の地位を超越する存在として自身を示すために、金閣を建てた。金閣の1階は貴族をイメージする寝殿造、2階は寝殿造と禅宗様の折衷様、3階は武士をイメージする禅宗様にすることで、武士が貴族の上位にいることを暗に示したこと。また、金閣の最上部にある鳥は鳳凰で、徳の高い君主が天子の位につくと現れる存在であり、^{うんげんべり}縹緗縁に座る義満が天皇になろうとしていることを示す」(取材者要約)と答えた。「これで授業を終了して良いくらいですね、たくさんのヒントがある意見でした」と古川先生はコメントした。

⑤ 補足説明と復習ペアワーク (約20分)

ここから、古川先生による補足説明とペアによる学んだことの共有のワークが繰り返行われる。

<補足説明1：鳳凰の意味>

金閣の最上部にある鳳凰について、為政者が善政をしたときに現れる鳥として紹介した。また、平安時代の国風文化のところで触れた平等院鳳凰堂を示し、藤原頼通について復習した。

ここで、ここまで考え学んだ内容について、ペアで共有する時間をとる(約30秒間)。

<補足説明2：足利義満の歴史的评价>

義満の歴史的评价について、一説として今谷明氏の「王権篡奪」説²⁾を古川先生は紹介した。また、金閣の3層構造の意味について「1階は金色ではない寝殿造、2階は金色の武家造、3階は金色の中国風の禅宗様、最上部の鳳凰は義満自身を表しているのではないかと。義満は権力を建物に可視化したのでは。ちなみに、日明貿易のときに義満は明の皇帝から何と呼ばれたか」と生徒に問いかけ、「日本国王」という答えを復習した。

ここで、ここまで考え学んだ内容について、ペアで共有する時間をとる(約30秒間)。

<補足説明3：金閣に見える思想>

金閣の1階およびその前の池と、平泉の毛越寺の

2 今谷明『室町の王権—足利義満の王権篡奪計画—』(中公新書、1990年)。古川先生は、あくまで一説であることを強調していた。

【2年2・3組 日本史B 単元ポートフォリオシート】
 -----第5章 武家社会の成立 (120~152 ページ) 単元 3 室町文化 (139~147 ページ) -----
 2年 組 番 氏名: _____

◆学修「Ⅱ」の「室町文化」のイメージは？(→知っていることは何ですか?)

(MEMO)

○単元を通して考えたい問い

京都が“ ”として機能するために考えるべきことは？

1 室町文化/豊臣朝の文化の動乱期の文化 (教科書 139~140 ページ・学修日: 11月7日(月))
 [この項目で考えたい問い]

★ 南北朝の時代に形成された文化にはどのような特徴があるか?

[解答]

→ _____

[新たな疑問・問い]

2 北山文化の室町文化の成立期 (教科書 140~142 ページ・学修日: 11月8日(火))
 [この項目で考えたい問い]

★ _____ ?

[解答]

→ _____

[新たな疑問・問い]

3 室町文化の室町文化の展開期/徳兵衛と地方の文化普及 (教科書 142~147 ページ・学修日: 11月10日(木))
 [この項目で考えたい問い]

★ _____ ?

[解答]

→ _____

[新たな疑問・問い]

○上記の「○単元を通して考えたい問い」について、学修した内容や用語をフル活用しながら、具体的に答えてみよう!

◆単元を学んだ「Ⅱ」の「室町文化」のイメージ(学修前と後とで、どのようにイメージが変わったか、考察してみよう!)

★最終的にあなたが追究したい問いは？そして、その答え(最適解)を見出そう!

~問い~

~答え(最適解)~

【資料2】単元ポートフォリオシート。単元の学習(学修)前・中・後それぞれで問いや仮説の記録をとっていく。最後の「★最終的にあなたが追究したい問いは？そして、その答え(最適解)を見出そう!」のところで良い問いや見解がある場合は、定期試験の設問として採用される。

池の写真をスライドで写し、比較をうながす。そして、浄土式庭園について復習した。また、金閣の3階にある舍利殿の写真と、鎌倉の円覚寺の舍利殿の写真をスライドで写し、円覚寺舍利殿の建造の背景について復習した。

ここで、ここまで考え学んだ内容について、ペアで共有する時間をとる（約30秒間）。

⑥ まとめとポートフォリオへの記入（約5分）

古川先生により、今回学んだことの整理が行われた。最後に、「単元ポートフォリオシート」（【資料2】）に、問いと解答（仮説の立証結果）、さらに新たな疑問・問いを記入する時間をとった（このシートは単元終了後に回収する）。そして最後の最後に、ペア同士で感謝の言葉を述べ合って終了した。

3. 授業の特徴

本授業の特徴として、i) ペアワークをベースとした思考の時間が多いこと、ii) 教師による問いと生徒による仮説立てとその検証が常に行われることがあげられる。

i) ペアワークをベースとした思考の時間

授業の最初から最後まで、こまめにペアワークの時間が設けられていた。仮説検証の6分間のペアワーク以外は、これまで学んだことの発問による確認や考えの共有などが30秒間もしくは1分間という短い時間で行われていた。常に誰かに話したり確認したりする時間が毎回あることで、考えるクセや対話する姿勢が身につけているようだ。

前掲の仮説検証のペアワークの注意事項に、「1. ペア同士の深い理解を目指す！ 教え合いを通して理解を深める」「2. 6分間でペア内での共有を終えること！ ただの調べ学習や雑談に終始しないように」とあった。生徒たち同士で深く理解するために、お互いに情報交換するだけではなく、教え合うことが強調されている。相手に伝え理解してもらうためには、自分も理解し相手にも理解できる状況をつくっていくことが必要である。このような、ペア

ワークを繰り返すことで、協働的な学びがうながされているのであろう。このことは、授業後にある生徒にインタビューした中で、「自分たちで学んでいる実感があり、めちゃくちゃ考える時間が多い」と笑顔で語っていたことからよくわかる。

ii) 教師による問いと生徒による仮説立てと検証

本授業では、「金閣を建てた義満の狙いは？」という教師の問いを起点に、この問いの答えを予測する仮説立てとその仮説の検証を生徒たちが行う。教師による問いに対して、まずは自分で考え、仮説を立てることでとりあえずの「答え」を出し、そしてその答えが適切かどうか検証していく。仮説を立てることで、自分たちの「答え」が生まれることになる。そして、その「答え」とペアで向き合うことで、自分たちなりの視点で教科書、副教材やweb上の情報を読み込むことにつなげていく。

前掲の仮説検証のペアワークの注意事項に、「3. 君たちの使命が「問いに対する最適解の構成（仮説の立証）」であることを忘れることなく！ 何かを覚えるためということだけではないのが授業」とあった。暗記や一問一答中心の学習だけではなく、問いと仮説立証を通じて、自分たちの頭で歴史について考え抜き、最適解の構成を常に意識していくことで、深い理解につながっていくのであろう。

4. 授業デザインの特徴

ペアワークや仮説立証を大切にしている授業の特徴は、〈日本史探究〉の授業デザインともつながる。古川先生による年度初めの授業開きの生徒への配付資料には、次のような記述がある。

- ◇小学・中学までは、パズルゲームに類似している
歴史“学習”だった（覚える>考える）
◆高校からは、それらのパズルピースを使って
歴史“学修”していく！（覚える<考える）
→関連・比較・時系列で、自分の頭で歴史を
考えていく（覚えるだけの歴史学習からの

脱却)

例) 土偶と埴輪の違い (比較)

卑弥呼はなぜ邪馬台国を統治できたのか?

幕府を創設した源頼朝と足利尊氏との共通点は?

織田信長はなぜ室町幕府を滅ぼしたのか?

★原因や理由, 影響, 結果を考察する学問が歴史学!

→「過去と現在との尽きることの知らぬ対話」(英人の E.H. カー) を通して, これからを考える学問でもある。

このメッセージの内容から, 古川先生の授業デザインの本質となるマインドが主に2点読み取れる。

1点目に, 高校の日本史は, 覚えることが中心の「学習」ではなく, 考えることが中心の「学修」であること。「学習」は「学問を習う(習得する)」、「学修」は「学問を修める(修得する)」という意味合いで捉えられる。「習得」は学び手が「学びの過程を経る」こと、「修得」は学び手が「学びの成果を獲得する」ことであるという³⁾。古川先生が高校での学びを「歴史学修」とする理由は, 授業や試験で完結するような「学習」だけではなく, 学んだ内容を自分の頭で考えて自分のものとして身につけていく「学修」を目的とした日本史の授業にしたいからであろう。そのため, 授業においてペアワークを活用し, 自分の頭で考えたことを常に他者にアウトプットしていく機会を設けていることがわかる。

2点目に, 日本史「を」学び, 日本史「で」学ぶことにつなげる。これは, 1点目ともつながってくる。古川先生に授業後にインタビューした中で, 「歴史の知識を学び, その知識で歴史を考えて, さらに歴史で現代的なものについて考えることで歴史を学ぶ意味につなげたい」(取材者要約) ことを強調していた。生徒向けのメッセージにあった, E.H. カーが言う「過去と現在との尽きることの知らぬ対話」の実践ともつながることである。日本史「を」学ぶこと(≒学習)からはじまり, 日本史「で」

学ぶこと(≒学修)につなげることを意識しているようである。

5. 新科目〈日本史探究〉への刺激

古川先生の〈日本史B〉の授業は, 2018年3月告示の高等学校新学習指導要領(以下, 新指導要領)における〈日本史探究〉を意識した授業になっている。

〈日本史探究〉は, その前段の科目となる〈歴史総合〉を受けた科目である。〈歴史総合〉では, 問いを表現し, 資料を収集・分析し, 歴史的な見方・考え方を働かせて, 自分なりに歴史を解釈しようとする態度を育成することを目的としている。そして, 〈日本史探究〉では, この資質・能力をベースとして, 発展させる授業展開を構成する必要がある。〈歴史総合〉で実施した単元での学習サイクルを踏襲しつつ, より高次の作業である「仮説」の設定や, 時代の解釈の機会を増やすことで発展的な学びを確保することにつなげる。

このような〈日本史探究〉の授業で必要となる「問い」と「仮説」の設定とその解釈・検証を, 古川先生の〈日本史B〉の授業では実現している。教師による問いの提示→生徒による仮説の設定とその検証→生徒によるさらなる問いの設定といった学習サイクルを繰り返すことで, 学んだ内容を自分の頭で考えて自分のものとして身につけていく「学修」を実現しようとしていることがわかる。

なお, 古川先生の授業の特徴は, 単元ベースだけで問いと仮説の設定とその解釈・検証をするのではなく, 1コマごとにそれらの活動があることである。このような経験を生徒たちが繰り返すことで, 知識を学び, 知識を使って考えて探究につなげていくことが1コマの中でも可能であることを知り, 1回1回の授業を意味あるものに生徒自身がつなげていくことにもなっているようである。

3 胸組虎胤「学習, 学修, 学高と「気づき」の関係」改訂版タクソノミーとSTEAM教育の点から考える」(『鳴門教育大学

研究紀要』37, 2022年)など参照。

6. 授業の「価値」

今回取材した授業では、いわゆる「文化史」といわれる単元を扱うものとなっていた。しかし、文化史の枠に完結せず、前後の政治的な内容も含めて扱うことで歴史の幅を持たせていることがよくわかる⁴。室町文化における金閣寺に触れるだけではなく、金閣寺を建立した足利義満の意図や歴史的意義を探ることによって、室町時代やそれ以前の政治・文化について、つなげたり、くらべたりする思考をしていく。

歴史の授業や学びについて、古川先生は、かつては歴史と現代的課題をつなげて生徒ひとりひとりが考えることが「良い授業」だと考えていたという。しかし、現任校に赴任してから、「過去」を学べる歴史ときちんと向き合い、その背後にある原因・理由、影響、結果を考察することに重きを置きたいと考えているという。歴史で学んだ内容をすぐさま現代的なことや身近なこととつなげてしまうことで、「わかったつもり」になり、それ以上考えなくなってしまうことを危惧している。そうならないために、新指導要領が示すところの「歴史的な見方・考え方」（社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果

関係などで関連付けたりすること）を磨いていける授業の場をつくっていくことに挑んでいるのであろう。さらに、歴史を学ぶ意味を生徒ひとりひとりに常に考えさせ、古川先生自身もそれについて授業をつくり、運営することを通じて追究しているようにも感じた。

読者のみなさまは、歴史、日本史、文化史を学ぶ意味をどのように考えますか？

◆訪問先データ

岩手県立盛岡第三高等学校（公立・共学校）

〒020-0114 岩手県盛岡市高松4-17-16

HP：http://www2.iwate-ed.jp/mo3-h/



4 筆者（皆川）は、中学校・高等学校における歴史（特に日本史）の授業が、そもそも「政治史」「外交史（対外関係史）」「社会経済史」「文化史」などと分類されて、教科書が叙述されていることにもっと疑問を持ってよいのではないかと考えている。「〇〇文化」とくくることによって、「政治」や「経済」

などの隔たりを生む歴史叙述は見直す必要があり、このような叙述が「文化」の意味を矮小化させているのではないか。その点でいうと、古川先生の授業実践は「文化」をその枠だけにとどめないものとなっている。

●最高裁判所判事に対する国民審査権の判決

公共 705 : p.110, 公共 706 : p.64, 政経 704 : p.74,
政経 314 : p.54, 政経 315 : p.45, 現社 317 : p.148

2022年5月25日の最高裁判所大法廷判決において、在外国民に対して最高裁判所裁判官国民審査における投票を認めていない現行制度は違憲であると判断された。これを受け、最高裁判所裁判官国民審査法の一部が改正され、2023年2月17日に施行された。投票用紙に裁判官の氏名を印刷する現行の仕組みでは、海外に送るのに時間を要する。このため在外国民審査では、裁判官の氏名に代わり、告示順を示す数字を印刷し、投票用紙を事前に用意できるようにする。

●成年年齢が18歳に引き下げ

公共 705 : 口絵4・p.9, 公共 706 : p.41, 政経 704 :
p.42, 政経 315 : 後ろ見返し・p.45, 現社 317 : p.263

2022年4月1日、改正民法が施行され、成年年齢が引き下げられた。日本における成年年齢は、1876年の太政官令以降、20歳とされてきた。しかし近年、憲法改正国民投票法の投票権年齢や、公職選挙法の選挙権年齢などが18歳に改定され、国政上の重要な事項の判断に関して、18歳、19歳の者を成人として取り扱うのが適切ではないかという議論がなされた。世界的にも、成年年齢は18歳が主流である。今回の民法の改正によって、保護者の同意なしの契約、裁判員に選ばれることなどが18歳でできるようになり、女性が結婚できる年齢は16歳から引き上げられた。一方で飲酒や喫煙、公営ギャンブルなどは、20歳にならなければならない。

●改正少年法の施行

政経 704 : p.76・後ろ見返し, 政経 315 : p.45

民法上は成人となった18歳・19歳の者を「特定少年」とし、扱いを大人に近づける改正少年法が施行された。「特定少年」は17歳以下の「少年」と同様に、警察や検察の捜査を受けたあと家庭裁判所に送られるが、家庭裁判所から検察に送り返す「逆送」という手続きの対象事件が拡大され、一定の重さの罪を犯した

場合は原則として大人と同じ裁判を受ける。これまで殺人や傷害致死など、故意に人を死亡させた罪が対象だったが、「特定少年」については新たに、強盗や強制性交、放火など、法定刑の下限が1年以上の罪も対象になる。また、「特定少年」が起訴された場合は、実名や顔写真などを報じることも可能になる。

●安倍元首相、銃撃され死去 政治

公共 705 : 口絵4

2022年7月8日、安倍晋三元首相が参院選演説中に銃撃され、死亡した。安倍元首相は、歴代最長の8年8か月にわたり政権を担い、経済や外交・安全保障に大きな影響を与えた一方、森友学園をめぐる公文書改ざんや加計学園問題、「桜を見る会」問題などの負の側面も問われた。9月27日に国葬が営まれ、海外要人も出席した。一般献花に約2万6000人が訪れた一方、会場周辺で反対デモが行われるなど、実施に関して賛否が交錯した。

●第26回参議院議員通常選挙

公共 706 : p.77, 政経 315 : p.56, 現社 317 : 口絵5

2022年7月10日、第26回参議院議員通常選挙の投開票が行われた。投票率は52.05%と、50%台を回復した。この選挙は、岸田総理大臣が憲法改正への支持を訴えたほか、新型コロナウイルス感染拡大が一服する中での景気回復に向けての政府の対応、ロシアによるウクライナ侵攻を受けての食料品や原油価格の高騰と円安の進行に伴うさらなる輸入品価格高騰に対する政府の対応についての評価が、主な争点となった。連立与党は、改選議席の過半数と非改選議席を合わせて定数の過半数にあたる147議席を確保した。

●子ども家庭庁、2023年4月に設置予定

公共 705 : p.106, 公共 706 : p.62, 政経 704 : p.69,
政経 314 : p.59・p.67, 政経 315 : p.42・p.45, 現社
317 : p.141

現在、子どもに関連する部局は厚生労働省、内閣府、文部科学省などにまたがっているが、それらを集約し

て縦割り行政を解消することを狙いとする。安定財源の確保が大きな課題となる。政府の「骨太の方針」では「企業を含め社会・経済の参加者全員が連帯し、広く負担していく仕組み」を検討すると掲げたが、企業負担には経済界の反発が予想される。

●刑法の侮辱罪が厳罰化

政経 704 : p.37・後ろ見返し, 政経 314 : p.46

刑法の侮辱罪を厳罰化する改正刑法が2022年6月13日に成立し、7月7日に施行された。近年インターネット上で人の名誉を傷つける行為が特に社会問題化した。これまで侮辱罪は名誉毀損罪と比べて法定刑が軽く抑えられていたが、厳正に対処されることとなる。

●マイナンバーカードの普及が目指される

公共 706 : p.52, 政経 315 : p.31

マイナンバー制度は12桁の個人番号によって社会保障や税などの手続きを行う制度。2013年に法成立、2016年導入。2021年10月から、マイナンバーカードが健康保険証として利用できるようになった。医療機関・薬局のシステム整備を支援しており、2023年4月1日より概ね全ての医療機関・薬局で使えるようになる。

●ロシアによるウクライナ侵攻

公共 705 : p.123・p.133, 公共 706 : p.105・p.133, 政経 704 : p.188・p.193, 政経 314 : p.100, 政経 315 : 口絵 3・p.172 など, 現社 317 : 口絵 5

2022年2月21日、プーチン大統領は、ロシアと国境を接するウクライナ東部の一部で、親口派武装勢力が実効支配する地域「ドネツク人民共和国」と「ルガンスク人民共和国」（共に自称）を一方向的に国家承認した。この両「共和国」からの要請とする形で、ロシアは軍を「平和維持部隊」として親口派支配地域に派遣し、ロシアのウクライナ侵攻が始まった。

1年以上に及ぶ戦闘によって多くの避難民が生まれ、日本でも受け入れが始まった。

●ゴルバチョフ死去

公共 705 : p.125, 公共 706 : p.132, 政経 704 : p.190, 政経 314 : p.100, 政経 315 : p.71, 現社 317 : p.183

旧ソビエトの最後の指導者であったゴルバチョフが2022年8月30日に亡くなった。ゴルバチョフは1985年にソ連の書記長に就任し、ペレストロイカ（改革）とグラスノスチ（情報公開）によって、閉鎖的な社会を民主化する政策を進めた。外交では欧米諸国などとの対立の緩和を目指す「新思考外交」を掲げ、社会主義圏だった東ヨーロッパ諸国の民主化や東西ドイツの統一を容認したほか、対立が続いていた中国との関係を正常化した。さらにアメリカとは核軍縮を進め、1989年のマルタ会談で、アメリカ大統領ブッシュとともに東西冷戦の終結を宣言した。

●RCEP 発効

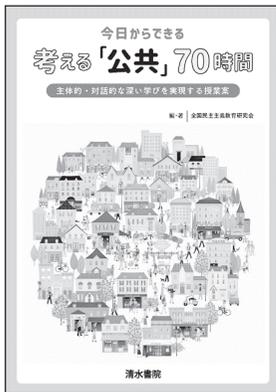
公共 705 : p.181, 公共 706 : p.141, 政経 704 : p.220, 政経 314 : p.205, 政経 315 : p.143・p.151, 現社 317 : 口絵 5・p.273

日中韓、東南アジア諸国連合（ASEAN）10か国、オーストラリア、ニュージーランドの計15か国が参加する地域的な包括的経済連携（RCEP）が2022年1月1日に発効した。域内の人口と国内総生産がいずれも世界の3割を占める。日本にとって環太平洋パートナーシップ協定（TPP）と並ぶ大型の経済枠組みで、中国や韓国とは初めて結ぶ経済連携協定にもなる。交渉の途中で参加を取りやめたインドは、いつでも加入できると特別に規定された。

●円安が進行、1ドル＝150円台に

政経 315 : p.138, 現社 317 : 口絵 5

2022年10月20日、32年ぶりに1ドルが150円台となった。アメリカは記録的なインフレを抑え込むために利上げを続けているが、日本は長期金利をゼロ%程度に抑えていることが主な要因。また、ドルは有事のときに強いとされるため、ウクライナ情勢の緊迫化もドル買いに拍車をかけ、円安を加速させた。



今日からできる 考える「公共」70時間

—主体的・対話的な深い学びを実現する授業案—

重版出来

全国民主主義教育研究会：編著
B5判／208頁 定価1,980円(税込)

新科目「公共」について、すぐに使える授業案をまとめました。

「主体的・対話的で深い学び」をどのように実現するか。指導要領に則した課題と独自課題24テーマについて、課題探究活動も含めた授業づくりのポイントを徹底解説しました。若手教員もすぐに使えるヒントがいっぱい。クラスがいきいきと活動するアイデアも満載です。現役の先生たちがまとめた授業案は、これからの授業づくりに悩んでいる公民科の先生たちの必携の書になります！



新科目「公共」 「公共の扉」をひらく 授業事例集

新科目「公共」のわかりやすい解説と「大項目A 公共の扉」に向けた授業事例を掲載。すぐに授業に使える工夫が満載！

B5判／200頁
定価 1,980円(税込)



—社会の課題を倫理的な 視点で考えてみよう— 討論事例から考える 「公共」の授業

大学の研究者、行政実務者、高校教員など多彩な執筆陣が、新科目「公共」の課題を哲学的・倫理的な視点で丁寧に解説。自ら考えを深め、発信する力を養う授業に活用できる討論事例集。

A5判／256ページ
定価 2,420円(税込)

歴史総合 パートナーズ

各：A5判／80頁 定価1,100円(税込)

新科目「歴史総合」に向け
学び直しのパートナーとして
新登場！

◎歴史のなかの一員である
私たちは、遠い過去の歴史を
学ぶだけではありません。

歴史から未来を想像／創造する～歴史する～ことを、この「歴史総合パートナーズ」とともに始めてみませんか？



B5／224頁
定価 2,200円(税込)

1コマでもできる 「公民科」「社会科」のための 模擬裁判教材集

18歳成人がスタートし、学校における法教育の必要性が叫ばれている。いろいろな難易度の模擬裁判シナリオと詳しい解説を掲載した、新科目「公共」でも使える教材。

シリーズラインナップ／以下続刊

- ① 歴史を歴史家から取り戻せ！／上田 信
- ② 議会を歴史する／青木 康
- ③ 読み書きは
人の生き方をどう変えた？／川村 肇
- ④ 感染症と私たちの歴史・これから／飯島 渉
- ⑤ 先住民アイヌは
どんな歴史を歩んできたか／坂田 美奈子
- ⑥ あなたとともに知る台湾
—近現代の歴史と社会—／胎中 千鶴
- ⑦ 3.11後の水俣/MINAMATA／小川 輝光
- ⑧ 帝国主義を歴史する／大澤 広晃
- ⑨ Doing History：歴史で私たちは
なにができるか？／渡部 竜也
- ⑩ 国境は誰のためにある？
—境界地域サハリン・樺太—／中山 大将
- ⑪ 世界遺産で考える五つの現在／宮澤 光
- ⑫ 国語って何だろう／安田 敏朗
- ⑬ なぜ「啓蒙」を問い続けるのか
／森村 敏己
- ⑭ 武士の時代はどのようにして
終わったのか／池田 勇太
- ⑮ 歴史からひもとく竹島/独島領有権問題
—その解決への道のり—／坂本 悠一
- ⑯ 北方領土のなにか問題？／黒岩 幸子

お問い合わせ、ご注文は、清水書院営業部までご連絡ください。 TEL 03-5213-7151 FAX 03-5213-7160